

笹川保健財団 地域啓発活動助成
助成番号：2022－007

2023 年 3 月 3 日

公益財団法人 笹川保健財団
会長 喜 多 悦 子 殿

2022 年度笹川保健財団地域啓発活動助成 活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

町内会メンバーとともに作る「暮らしの保健室」
－住み慣れた地域で A C P（人生会議）を積み重ねる活動を通じて－

所属機関・職名 ミヤビー宮の森

氏名 半澤 博恵

1. 活動の内容・実施経過

◎暮らしの保健室 シオン広場 第1木曜日 13:00~15:00



場所

〒064-0922

北海道札幌市豊平区月寒東3条7丁目
5-21

札幌YWCA・壘



運営：コミュニティサロンシオン

運用：地域ボランティア

多世代交流ができる場として地域に開かれている

料理教室・自然療法サロン・介護予防事業

地域食堂・書道教室など

居酒屋を経営していたがコロナ渦で閉店

高齢となった常連さんはじめ地域の方々に集ってもらえる場にしたいと改装され2022年6月に工事終了
公的事業所の介入もある多世代交流の場となっている

広報：チラシ配布 町内会回覧版・介護予防センター・公民館・サロン利用者他

サロンオーナーさんが各所に積極的に広報してくださる

その他、SNSなどで発信

経過：コロナ渦であり、積極的とはいかないものの、公的事業所や町内会長・民生委員とも相談しすすめる
地域と仲良くなる時間が必要だったので、計画通りとはいかないものの、徐々に形作られて進行中

【2022年8月】



参加者 5名

10代から70代の来訪あり

サロンオーナーが積極的な広報活動を展開してくれる

町内会長の来訪あり

回覧板で回してくれることになる

オーナーさんが手作りお菓子を差し入れしてくださる

【2022 年 9 月】



参加者 6 名

オーナーさんが以前より気になられていた方を誘ってくださり、近郊の方が来訪される

老々介護中であり、日々の抱える気持ちを話される

民生委員来訪あり、広報活動に協力いただけることになる

【2022 年 10 月】



参加者 5 名

暮らしの保健室ほほほっ のぼり設置

再来の地域の方や介護予防センター・地域コーディネーター職員の来訪あり

地域活動をともに展開していこうとの話になる

地域コーディネーターより、会場（紫苑）での地域食堂開催打診あり

当団体も関わらせていただくこととなる

【2022 年 11 月】



参加者 5 名

会場裏に住む方が来訪され、日々の不安について話される

また来月来ようかな、と笑顔で帰られる

地元紙 北海道新聞社の取材がはいり後日掲載となった

【2022 年 12 月】



参加者 6 名

毎月来訪されている方が近所に住む友人を誘い来訪される

ご主人を亡くされ 2 年余り自宅にこもる生活をされていた方

楽しかった、また来たいですと話される

近くで多世代交流に取り組む NPO 団体職員の来訪あり

地域活動の協働について話し合う

体操実施

【2023 年 1 月】



参加者 5 名

社会福祉士・介護支援専門員からの介護保険や社会資源に関する勉強会を予定していたが、講師体調不良で未開催となった

ボディメンテナンスをされている方の来訪があり、急遽ミニ勉強会を実施する
ボディメンテナンスについては今後別日で勉強会を開催していくことに繋がる
体操・脳トレパズル実施

【2023 年 2 月】



参加者 6 名

介護予防センターの催しに参加されている方が保健室の話を聞き来訪
一対一の相談会なのかと考えていたと緊張されていたが、近くにこんな場所
があると嬉しいと話される

春から就労支援事業所に携わる方の来訪あり、地域の福祉活動のこれから
についての話も展開した

体操・ゴクニ体操実施

2. 活動の成果

サロンオーナーさんの全面的な協力の元、毎回フォーマル・インフォーマル、年齢や性別也多岐に渡る方の来訪あり。
コロナ渦の影響があり、町内会として積極的に参加を促すことは難しい状況ではあったが、回覧板でチラシを回していた
だく、民生委員さんが気になっている方に声をかけてくださるなどの協力が得られた。

現在はオーナーさんのコミュニティの範囲で徐々に広がってきている状態。

人づて、新聞掲載、SNS などの広報効果で来訪された方が更に広報してくれる、保健室を訪れた方が別日でサロンを
活用した地域活動を展開してくれる（ボディメンテナンス）など、地域とともに歩む活動が保健室をきっかけとして展開
され始めている。

サロンを通して知り合った方から地域で開催されている福祉活動に誘っていただけ、保健室日以外での地域活動も
増えている。また他事業所より声がかかり、保健室と別日ではあったが協働開催として、学校で生きにくさを感じている
学生をサロンに招いての手編みマフラー作成や百人一首大会をともに開催することが出来た。

活動を始めてみて何かを展開していくには地域と仲良くなる時間が必要と感じ、当初の計画通りに初めから学びあう場
として展開せずに状況をみてきたが、12 月頃より体操や脳トレなどを実施できるようになった。

ACP を積み重ねるという状況にはならなかったが、今後展開していける土壌作りができたと考えている。

土壌を作ることが大切で必要なのだと、開催して学ぶことができた。

助成は終了となったが 2023 年 3 月の保健室では、参加者の関心が高かった防災についての勉強会を実施するこ
が出来た。

4 月からは保健室を月 2 回に増やし、当初計画していた ACP についての学び場としての展開も積極的に進めていき
たい。

3. 今後の課題

- ・会場費用の捻出（会場費・お菓子購入代・スタッフ交通費）。
- ・毎回同じ方が参加するとは限らず、ACP への理解、ともに作り上げる活動をどのように計画し進めるか。
- ・地域で開催されている集会や催しにどの程度参加するべきか、自身の身体的経済的負担をどうするか。

4. 活動成果等の公表予定（学会、雑誌）

現在の予定はない。

今後、札幌全般の各地域での勉強会や報告会に参加時に公表の可能性はある。

2022 年 10 月 30 日 ホームホスピス全国大会にて経過報告した経緯あり。

【保健室を始めて広がる地域での活動】

地域コーディネーターからの提案を受け地域食堂をサロンで開催
スタッフとして参加



2月25日の地域食堂風景



第1回目のチラシ、以降毎月開催

社会福祉協議会の方も



サロンオーナーに誘われ、マルシェに参加 地域と交流



その他の活動

・つきさつプロジェクト 月1回

月寒地区で児童を中心とした事業所に携わる従事者、地域コーディネーターなどが参加している
当団体の活動報告・広報実施



保健室に来訪してくれる

ともに多世代の場作りをしていこうと話になり、現在交流中

(参加されていた方の個人情報上で写真 NG)



地域高齢者の指導で紙雛作りに参加

その他

不登校気味な中学生とカルタ大会・編み物
会に参加

発達に不安のある母子が集う場に参加

2023 年春以降に予定されているもの

- ・介護予防センター事業（ボランティア育成）講師として参加
- ・地域で健康教室開催打診あり

- ・不登校気味な児童に関する集い場作りへの参加

* * 地域と仲良くなりながら、住み慣れた地域で ACP を積み重ねる活動をさらに展開していきたい